

宮崎県感染症週報

宮崎県感染症情報センター：宮崎県健康増進課感染症対策室・宮崎県衛生環境研究所

宮崎県第2週の発生動向

定点医療機関からの報告総数は1,218人（定点あたり32.8）で、前週比168%と増加した。（前週は年末年始含む。）

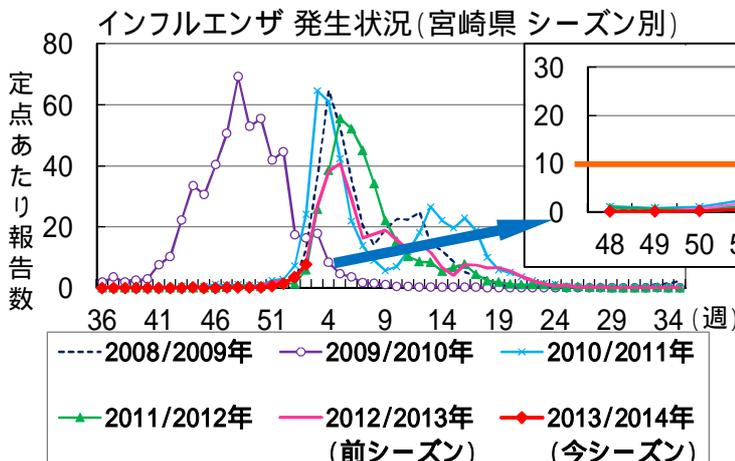
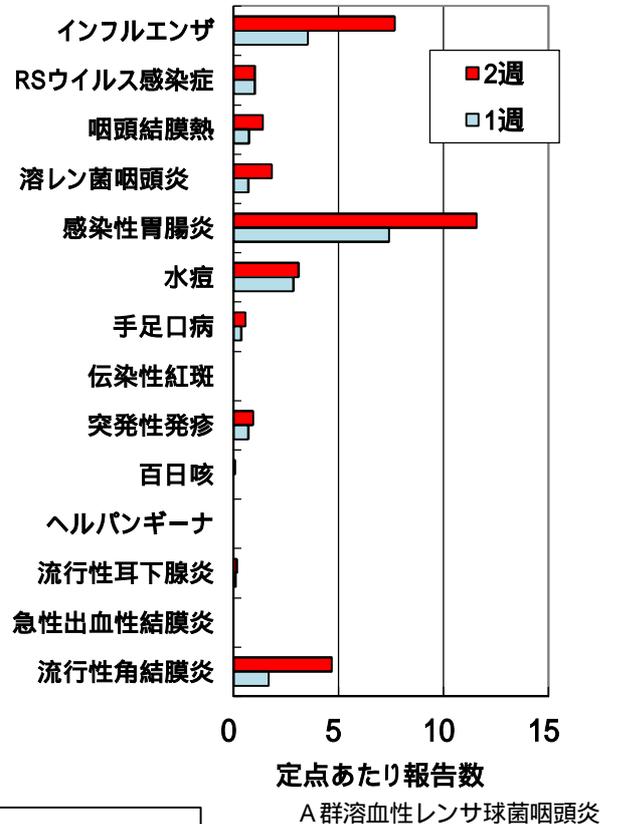
前週に比べ増加した主な疾患はインフルエンザと感染性胃腸炎で、大きく減少した疾患はなかった。

インフルエンザ・小児科定点からの報告

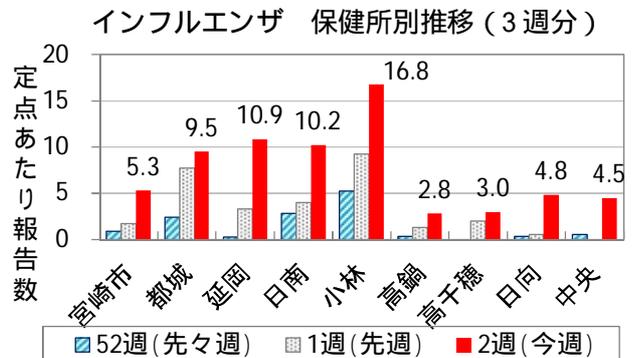
【インフルエンザ】

・報告数は452人（7.7）で前週比217%と増加した。例年同時期の定点あたり平均値（18.0）の約4割である。小林（16.8）、延岡（10.9）、日南（10.2）保健所からの報告が多く、年齢別では5歳以下が全体の35%、6～9歳が20%、10～14歳が11%、15～19歳が4%、20歳代～50歳代が26%、60歳以上が4%を占めた。

(前週との比較)



(拡大図には2009/2010シーズンを除く)



【感染性胃腸炎】

・報告数は416人（11.6）で前週比156%と増加した。例年同時期の定点あたり平均値（17.3）の約7割である。日南（25.3）保健所からの報告が多く、年齢別では1歳から3歳が全体の約4割を占めた。

同定細菌名	年齢(歳)	性別	採取月日	臨床症状等	検出材料	同日
<i>Salmonella</i> Schwarzengrund (O4:d:1,7)	10歳代	女	2013.12.9		便	2013.12.18
<i>Staphylococcus aureus</i> (エンテロトキシンC型、TSST-1+)	0~4	女	2014.1.3	発熱(40.0)、下痢、嘔気、 発疹(紅斑)、ショック症状、 循環不全	皮膚病巣	2014.1.12

発熱、下痢、嘔気、発疹、ショック等の症状を呈した女児から*Staphylococcus aureus* (エンテロトキシンC型 TSST-1*遺伝子陽性)が検出された。黄色ブドウ球菌が産生する毒素には耐熱性の外毒素(エンテロトキシンA~E)が知られているが、食中毒患者から分離される株の多くがエンテロトキシンA型、B型である。一方、急性全身性感染症(TSS)の原因毒素、TSST-1産生株はエンテロトキシンC型もしくはB型とC型を産生するものが多く、エンテロトキシンC型産生株が分離された場合には、より詳細な検査が必要と考えられる。

* ...toxic shock syndrome toxin-1

ウイルス

同定ウイルス名	年齢	性別	採取日	臨床症状等	検出材料	検出日
インフルエンザAH3型	1	女	2013.12.18	インフルエンザA、40.0、上気道炎	咽頭ぬぐい液	2014.1.8
インフルエンザAH3型	3	男	2013.12.24	インフルエンザA、38.6、上気道炎	咽頭ぬぐい液	2014.1.8
インフルエンザAH3型	5	男	2014.1.5	インフルエンザA、39.0	咽頭ぬぐい液	2014.1.8
インフルエンザAH1pdm09型	7	男	2014.1.5	インフルエンザA、39.0	鼻汁	2014.1.8
インフルエンザB型 (山形系統)	9	女	2013.12.28	インフルエンザB、38.2、下痢、咳	咽頭ぬぐい液	2014.1.8
インフルエンザB型 (ビクトリア系統)	9	女	2014.1.5	インフルエンザB、発熱	咽頭ぬぐい液	2014.1.8

インフルエンザA型と診断された小児3名からインフルエンザAH3型、1名からAH1pdm09型が検出された。インフルエンザB型と診断された小児1名からインフルエンザB型(山形系統)、1名からインフルエンザB型(ビクトリア系統)が検出された。提出された検体は全て宮崎市保健所管内の患者であった。本県でAH1pdm09型の検出は2年ぶりで、B型も今シーズン初めてである。全国的にもインフルエンザの検出報告は増加しており、1月15日現在でAH3型が最も多く、次いでAH1pdm09、B型(ビクトリア系統)、B型(山形系統)の順となっている。

全国第1週の発生動向

定点医療機関あたりの患者報告総数は9.9で、前週比42%と減少した(年末年始含む)。今週増加した主な疾患はインフルエンザで、減少した主な疾患は感染性胃腸炎とA群溶血性レンサ球菌咽頭炎であった。

インフルエンザの報告数は9,891人(2.2)で、前週比114%と増加した。沖縄県(13.1)、岐阜県(8.2)、高知県(6.5)からの報告が多く、年齢別では、5歳以下が全体の19%、6~9歳が11%、10~14歳が9%、15~19歳が5%、20歳代~50歳代が48%、60歳以上が8%を占めた。

感染性胃腸炎の報告数は12,312人(4.3)で、前週比31%と減少した。茨城県(13.0)、徳島県(12.0)、香川県・大分県(各9.9)からの報告が多く、年齢別では1歳から4歳で全体の約4割を占めた。

全数把握対象疾患(全国第1週)

1類感染症	報告なし					
2類感染症	結核	35例				
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	2例				
4類感染症	つつが虫病	4例	デング熱	1例	マラリア	1例
	レジオネラ症	12例				
5類感染症	アメーバ赤痢	1例	ウイルス性肝炎	1例	急性脳炎	2例
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1例	後天性免疫不全症候群	2例	侵襲性インフルエンザ菌感染症	6例
	侵襲性髄膜炎菌感染症	1例	侵襲性肺炎球菌感染症	13例	梅毒	2例
	破傷風	2例	風しん	2例	麻しん	3例

月報告対象疾患の発生動向 <12月>

性感染症

【宮崎県】 定点医療機関総数：13

定点医療機関からの報告総数は30人（2.3）で、前月比61%と減少した。また、昨年12月（2.0）の約1.2倍であった。

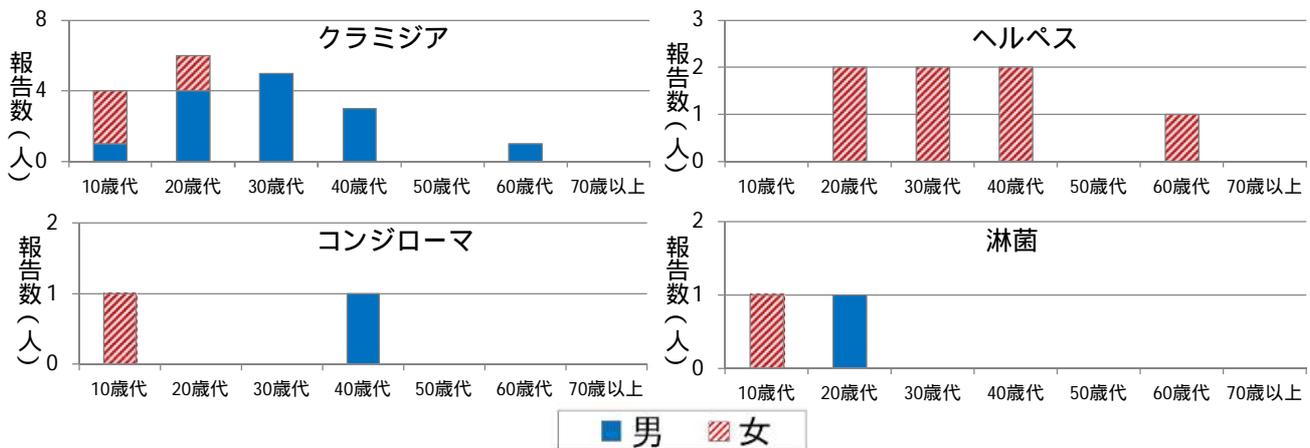
《疾患別》

性器クラミジア感染症：報告数19人（1.5）で、前月の約半数、前年の約1.9倍であった。20歳代・30歳代が全体のそれぞれ約3割を占めた。（男性14人・女性5人）

性器ヘルペスウイルス感染症：報告数7人（0.54）で、前月の約2.3倍、前年と同程度であった。（女性のみ）

尖圭コンジローマ：報告数2人（0.15）で、前月と同程度であった（前年報告なし）。（男性1人・女性1人）

淋菌感染症：報告数2人（0.15）で、前月の約3割、前年の約2割であった。（男性1人・女性1人）



【全国】 定点医療機関総数：973

定点医療機関からの報告総数は3,803人（3.9）で、前月比94%と減少した。疾患別報告数は、性器クラミジア感染症1,898人（2.0）で前月比92%、性器ヘルペスウイルス感染症724人（0.74）で前月比103%、尖圭コンジローマ448人（0.46）で前月比98%、淋菌感染症733人（0.75）で前月比92%であった。

薬剤耐性菌

【宮崎県】 定点医療機関総数：7

定点医療機関からの報告総数は19人（2.7）で前月比106%と増加した。また昨年12月（7.9）の約3割であった。

《疾患別》

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症：報告数18人（2.6）で、前月と同程度、前年の約3割であった。70歳以上が全体の約8割を占めた。

ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：報告数1人（0.14）であった（前月及び前年報告なし）。

薬剤耐性緑膿菌感染症：報告はなかった。

薬剤耐性アシネトバクター感染症：報告はなかった。

【全国】 定点医療機関総数：470

定点医療機関からの報告総数は1,845人（3.9）で、前月比101%と横ばいであった。疾患別報告数は、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症1,545人（3.3）で前月比100%、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症269人（0.57）で前月比104%、薬剤耐性緑膿菌感染症18人（0.04）で前月比67%、薬剤耐性アシネトバクター感染症13人であった。

宮崎県 感染症情報

(72定点医療機関)

2014年 第02週(01月06日～01月12日)

疾病名		第1週	第2週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数	208	452	85	95	76	51	84	17	6	29	9
	定点あたり	3.53	7.66	5.31	9.50	10.86	10.20	16.80	2.83	3.00	4.83	4.50
RSウイルス 感染症	報告数	36	36	14	4	3	3	2	1		9	
	定点あたり	1.00	1.00	1.40	0.67	0.75	1.00	0.67	0.25	0.00	2.25	0.00
咽頭結膜熱	報告数	26	50	16	11	8	5	2	2		4	2
	定点あたり	0.72	1.39	1.60	1.83	2.00	1.67	0.67	0.50	0.00	1.00	2.00
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	報告数	25	65	11		19	4		4	1	24	2
	定点あたり	0.69	1.81	1.10	0.00	4.75	1.33	0.00	1.00	1.00	6.00	2.00
感染性胃腸炎	報告数	266	416	117	67	23	76	37	51	5	32	8
	定点あたり	7.39	11.56	11.70	11.17	5.75	25.33	12.33	12.75	5.00	8.00	8.00
水痘	報告数	102	111	24	22	9	26	13	6		7	4
	定点あたり	2.83	3.08	2.40	3.67	2.25	8.67	4.33	1.50	0.00	1.75	4.00
手足口病	報告数	13	20	4	1	3	2	3	4		1	2
	定点あたり	0.36	0.56	0.40	0.17	0.75	0.67	1.00	1.00	0.00	0.25	2.00
伝染性紅斑	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
突発性発しん	報告数	25	33	8	5	6	3	2	3		5	1
	定点あたり	0.69	0.92	0.80	0.83	1.50	1.00	0.67	0.75	0.00	1.25	1.00
百日咳	報告数		2			2						
	定点あたり	0.00	0.06	0.00	0.00	0.50	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
ヘルパンギーナ	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
流行性耳下腺炎	報告数	3	5	1				1			3	
	定点あたり	0.08	0.14	0.10	0.00	0.00	0.00	0.33	0.00	0.00	0.75	0.00
急性出血性結膜 炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	10	28	24	3	1						
	定点あたり	1.67	4.67	8.00	1.50	1.00						
細菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ肺 炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
クラミジア肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	報告数	4										
	定点あたり	0.57	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	

インフルエンザ定点:59、小児科定点:36(インフルエンザ定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

上段:報告数
下段:定点当り報告数

全数把握対象疾患累積報告数(2013年第1週～2週)

2類感染症	結核	6例(6)
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	1例(1)
4類感染症	つつが虫病	2例(2)
5類感染症	急性脳炎	1例(1)

()内は今週届出分、再掲